

令和6年度 とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業
実施報告書【地域連携実践重点校用】

学校番号	14
学校名	富山県立富山北部高等学校

重点課題	地域社会の形成者としての自覚を持たせるとともに、地域の課題を自分ごととして捉え、課題を解決するための能力を養い、地域に開かれた学校を目指す。
課題設定の趣旨	本校は、普通科、普通科体育コース、くすり・バイオ科、情報デザイン科の4つの学科・コースを持つ総合制高校である。4つの学科・コースではそれぞれ専門的に学ぶ分野は異なるが、全ての学科・コースで共通した中長期ビジョンの一つとして「地域社会で活躍する人材の育成」を掲げている。 本校では、「地域社会・大学・企業との連携」をテーマとし、地域社会の形成者としての自覚を持たせるために、それぞれの学科・コースの特色を活かし、地域社会や企業と連携しながら、地域の課題を発見し、解決する活動を行っている。地元企業に就職し、将来の地域社会を担う人材が多い本校の生徒に、高校生の段階から「自分たちで地域をつくる」という意識を持たせることは、必要不可欠なことである。そのための方策として、次の点が求められる。 ・地域社会の形成者としての資質・能力を養うために、「総合的な探究の時間」や「課題研究」を柱としたカリキュラム・マネジメントを行う。
中長期ビジョンを実現するための今後の重点事項	中長期ビジョンである、「地域社会で活躍する人材の育成」を達成するために、今後はより地域社会の人々に関わる機会を設ける必要があるとともに、「地元のために何ができるのか」ということを常に生徒自身が考え続けられる環境を整える必要がある。そのため、今年度の活動が続けるとともに、地域の企業や人々から課題に感じていることを聞き取り、解決策を考え実行する活動が必要である。
実施内容 (具体的に記入する)	1 3学科(1コース)合同課題研究・探究発表と日頃の活動 - 各学科・コースの探究活動や課題研究の取り組みについてプレゼンテーションを行い、生徒、来場者、招待者(企業、大学、関係機関等)に説明した。(全学科) - スポーツ栄養学、スポーツマネジメント、フィジカルトレーニング、薬化学、生命工学、ビジネス(経済、経営、法学)、デザイン等の専門家から指導助言を得た。(1～3年普通科体育コース、くすり・バイオ科、情報デザイン科) - 地域活性化に向けて取り組んでいるNPO法人きんたろう倶楽部様の協力を得て、富山市ファミリーパークにある竹の伐採体験や里山整備の重要性の講義を受け、呉羽山を開発することで作られた地域の魅力や今後の課題について考察した。(1年普通科) - 岩瀬スポーツ公園や富山グラウジーズの経営状況やユースチームの運営などの講義を受け、スポーツで富山を盛り上げるために必要なことは何かを考察した。(1年普通科体育コース) - 富山県立大学と連携し、流域治水に関するジオラマを制作した。流域治水に関する30以上の政策をジオラマを使って説明した。「とやま探究フォーラム」に参加し、ジオラマの展示と発表を行った。また、様々なシンポジウムへ参加し、流域治水の認知度を上げることができた。(2年普通科) - 発表資料の作成方法やプレゼンテーションの仕方の講義を受け、聴き手への伝え方について学んだ(2年普通科) - 日頃の体育コースの探究活動やスポーツ研究についての発表や体験会を行うイベントである「富北スポフェス」を行った。岩瀬スポーツ公園健康スポーツドームで行ったこともあり、地域の小学生や中学生にも参加してもらうことができた。(1～3年普通科体育コース) 2 情報デザイン科生徒による北高展、模擬株式会社 - 生徒が運営責任者となり「北高展」の会場計画、各学科の連絡調整等の企画、運営を実践した。また、デザイン制作の模擬株式会社の経営実践を充実させた。
取組の成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	1 3学科(1コース)合同課題研究発表会と日頃の活動 - 同じ校舎にいらながらも自身とは異なる学びをしている仲間の活動を知るきっかけとなり、大きな刺激を受けるとともに、本校の特色や強みを再確認する機会となった。講師からは、「各学科が日頃から一生懸命取り組んでいる様子が分かった。何よりも生徒たちが生き生きとしている姿が富山北部高校の良さを表している。今後も積極的にこのような活動を続けて欲しい。」とお言葉をいただいた。また探究活動にご協力いただいた方からも、「回を重ねるごとに発表が良くなっている。生徒たち自身の理解が深まっていると感じた。」とお言葉をいただき、外部の人も生徒の成長を感じるほど、素晴らしい発表会となった。 - 富山県立大学と連携し、初めてジオラマ制作を行ったことで、生徒たちは多くのことを学んだ。特に最初は何をしたら良いか分からず自分から動くことが少なかったが、ジオラマを制作していく過程で、どのようにすれば上手いくのかを自身で考え行動するようになった。そして、「自分たちの街ではどの政策を行えば一番良いのか」や「地域に暮らす人々 はどのように考えているのだろうか」と自分自身の考えを地域社会に照らし合わせることができるようになった。地域社会には様々な課題があるが、その課題を解決するためには様々なステークホルダーと関わり、話し合い、皆が納得できるような解決策を考える必要があると気づくことができた。(2年普通科) - 今年度初めて開催した「富北スポフェス」では、探究活動の成果や生徒たちが日頃から取り組んでいるスポーツ体験会を行うことで、改めてスポーツを通して地域のためにできることを考えるきっかけとなった。スポーツイベントのチラシを近くの小中学校や幼稚園、生徒の出身中学校等に配布した。チラシを見て参加したという人もいたが、その日たまたま公園で遊んでいて気になって参加した人もいた。このように誰でも参加しやすい環境作りを行うことで、地域に開かれた学校に一歩近づいた。(1～3年普通科体育コース) 2 情報デザイン科生徒による北高展、模擬株式会社 - 複数のグループで実際に提案した企画が企業等に正式採用されたものもあり、課題解決策の1つを提案した。 - 課題研究のグループや「北高展」の運営など、協働活動を通して自身の役割と責任を認識し、調和を図りながら目的を遂行しようとする力が育まれた。 - 企業・大学・研究機関、関係団体等との連携や地域課題の考察を通して、思考力、実践力、表現力等が身についた。 「とやま探究フォーラム」では、3チームが発表し、外部に日頃の活動を知ってもらうことができた。
対象者(学年・人数など)	[普]普通科(1年、2年)、[体]普通科体育コース(1年、2年)[工]くすり・バイオ科(2、3年)、[商]情報デザイン科(1年、2年、3年)
実施実績	4月 [商]会社組織、CI構築(企業理念、企業ロゴ等) [普、体、工、商]課題研テーマ設定(～6月)
	5月 [商]株主総会、各社PRプレゼン [体]スポーツ学講座
	6月 [商]取引先企業等との交渉 [普、体、工、商]先行研究リサーチ
	7月 [商]実態調査、調査結果の分析 [普、体、工、商]調査、フィールドワーク、実験(～12月)
	8月 [商]アイデアデザインの検討
	9月 [商]商品(デザイン)制作、取引先企業プレゼン [普、体、工、商]中間報告会、呉羽山・岩瀬地区調査準備(1年)
	10月 [商]商品(デザイン)ブラッシュアップ後再プレゼン [普]呉羽山・岩瀬地区フィールドワーク(1年)[体]スポーツ学講座
	11月 [商]商品(デザイン)完成・納品 [普、体、工、商]発表資料作成、呉羽山・岩瀬地区フィールドワーク(1年)、イベント開催(体育コース)
	12月 [商]北高展での役割分担、会場展示計画の作成 [普、体、工、商]学科別発表、セッション、仕上げ
	1月 [商]北高展における会場設営、展示 [普、体、工、商]課題研究合同発表会
	2月 [商]株主総会(事業・決算報告)、北高展改善点洗い出し [普、体、工、商]課題研究のまとめ(～3月)
	3月 [商]改善策の検討・具体的解決策の提案 [普]個人論文作成(2年)